

日本のアメリカンフットボールの競技人口拡大の為の施策とその可能性

Measure and the possibility for expansion of American football participants in Japan

1K04A045

大西 裕人

指導教員

主査 村岡功先生

副査 野中利子先生

アメリカンフットボールは究極のスポーツである。しかし、日本ではスポーツとしての普及率が低い。本研究では、スポーツとしての成功という観点から、現状を認識した上で、今後の日本のアメリカンフットボールがどのような方向に進めば良いかを論じたものである。

日本のフットボール界の現状と可能性

現在、日本でのアメリカンフットボールの競技人口は1万8千人といわれている。サッカー(750万人)や野球(730万人)、バレーボール(650万人)などその他のスポーツと比較しても、日本での普及率の低さが分かる。日本でもアメリカンフットボールというスポーツのプロ化を目指す動きがあるものの、その普及率(競技人口)の低さや、世界的に見た競技力の面から、現時点でのプロ化は困難と言わざるを得ないだろう。現在、本場アメリカのNFLでは、いまだに日本人選手は誕生しておらず、挑戦しているものこそいるが、経済環境や語学の問題など超えなければならない壁はまだ多い。近年、こうしたNFLに挑戦する日本人を支援する団体(International Player Development: IPD)も設立され、国際レベルの競技力を獲得するためのサポート体制が整いつつある。それでも、NFL選手の誕生は容易では無いだろう。

アメリカNFLリーグの歴史と現状

1902年に、アメリカで初のプロリーグがナショナルフットボールリーグ(NFL)という名称でフィラデルフィアに作られた。その後NFLは一度収入面の問題により打ち切られたが、1920年に設立されたア

メリカン・プロフェッショナル・フットボール・アソシエーション(APFA)が設立され、1922年6月24日に、現在のNFLへと名称を変更し、このNFLが今日まで続いているプロフットボールリーグである。現在に至るまでには、ドラフト問題や給与高騰、協会の二極化による選手の争奪戦など、様々な問題点があったが、試行錯誤を重ね、今では、アメリカにおける四大スポーツとしての地位を確立した。

NFLリーグではスポーツ大国アメリカにおいても、その独自の強みを数多く有している。超人的な身体能力が生み出す迫力のあるプレイ、メディアとの強固な結びつきによるマーケット拡大、理念に基づいたドラフト制度によって均等化された戦力バランスによる試合内容の充実などである。また、ファンサービスにも特化しており、地域に根付いた熱狂的なファンを多数獲得しているのもその要因の一つと言えるであろう。

日本アメリカンフットボール界の今後の道筋

スポーツの種目にとって成功するには多くの要素が関係しているため、何を持って成功と言えるのか、それを一言で言い表すのは難しい。商業的な成功、また教育的なスポーツとしての成功、あるいは生涯スポーツとして成功を収めているスポーツも存在している。アメリカンフットボールにおいても、同様にいくつかのパターンに分類し、成功への道筋を描く事が可能になる。しかし現在、日本アメリカンフットボール界にとって一番重要なことは、なによりアメリカンフットボールの魅力を多くの人に広め、競技人口を増加させることが重要である。そのためには、1. 指導者の育成、2. 日本の

アメリカンフットボールリーグ(Xリーグ)のメディアを用いた商業化、3. 日本人選手の競技レベルの向上(NFL選手の誕生)などが考えられる。従って、日本のアメリカンフットボールの現状を考えると、こ

れらを成功させるには、フットボール界が一丸となり、これらの施策を講じていく必要があることを提言する。